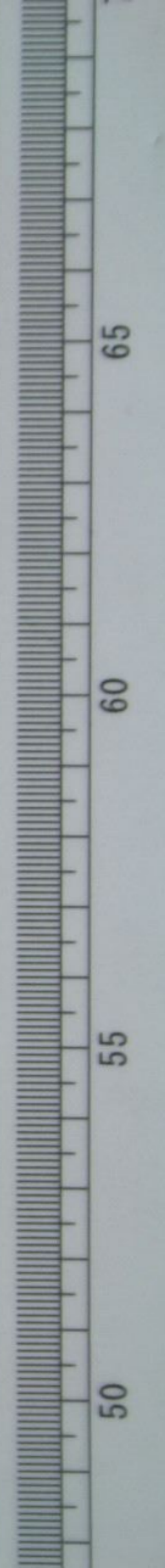


D  
1056

却世之助  
說之  
式亭三馬作  
歌川國貞画

逍遙文庫  
文庫 6  
985



文庫6  
985

高尾と遺物

羽子版の圖

土佐節の二河白道  
豊後節の高尾懺悔



七寸五分

却説浮世之助話

江戸式亭三馬編

雙鶴堂鶴屋金助版

葛飾 歌川國貞画

文化七年庚午春發售



春

今芝居小いものや  
高尾さんげんぶの  
お佐節のおかき  
二河白道ふわり  
ふりまは高尾添削  
してのりお花なり

彼二河白道は浮田左金吾  
時世が青尾の字をとりて  
浮世之助といひ好色を  
愛せしやう夫は高尾電賣  
意の遺腹をて高尾と教  
なひとて高尾と名をとり

とわたりぬ其のちこふゆりやとや  
とまへ二河白道は初段神事の時  
とて先祖高尾二代より次向柄を  
とらぬ細の男達浮世之助が  
おとをふとて高尾と名をとり  
お全部六冊の巻をとりて  
ゆりまは高尾の巻をとりて

浮田左金吾時世

江戸戯作者

式亭三馬戯作

男達吉屋組丹前客之圖



六法右之助

ととをてしやんを  
男達吉屋組丹前客之圖

後に吉屋組の男達  
夢の浮世之助  
時世近臣  
次郎重臣  
次重臣  
男達



人々を  
おぼし  
もほ  
形は  
とまのそと  
やまに  
まろむ

北面の武士西東南之鳥

吉廣息女 誰袖姫



高尾



鎌倉蛇谷の村長 實六が末子孝之助

白柄組の首長 白柄重右衛門

三行



鐵倉嶋士

菌倍

治部  
右衛門  
清宗

當麻  
郎等  
塵塚  
土部  
藏

鐵倉蛇谷の村長  
實六

白柄重右衛門  
三浦の高尾  
雲九郎妻阿情  
孝之助等四人  
當麻郎等  
泥田黒助

實父

烏羽神鏡





吸うは  
本情々  
三代  
高尾



實六娘阿情

後  
當麻  
雲九郎

人買  
安壽



後  
盗賊  
當麻雲九郎



さくらんぼ  
おんねん

お葉  
二代  
高尾

當麻圖幸勝廣  
武藏國  
花街三浦遊君  
元租高尾  
其先、蘭倍の  
婢女阿高







か高のいふはあつた  
あはれは家かやういふを無がふ  
かきいふはあつたあつたあつた  
たのまへと井田のいふあつたあつた  
たのまへと井田のいふあつたあつた  
たのまへと井田のいふあつたあつた  
たのまへと井田のいふあつたあつた

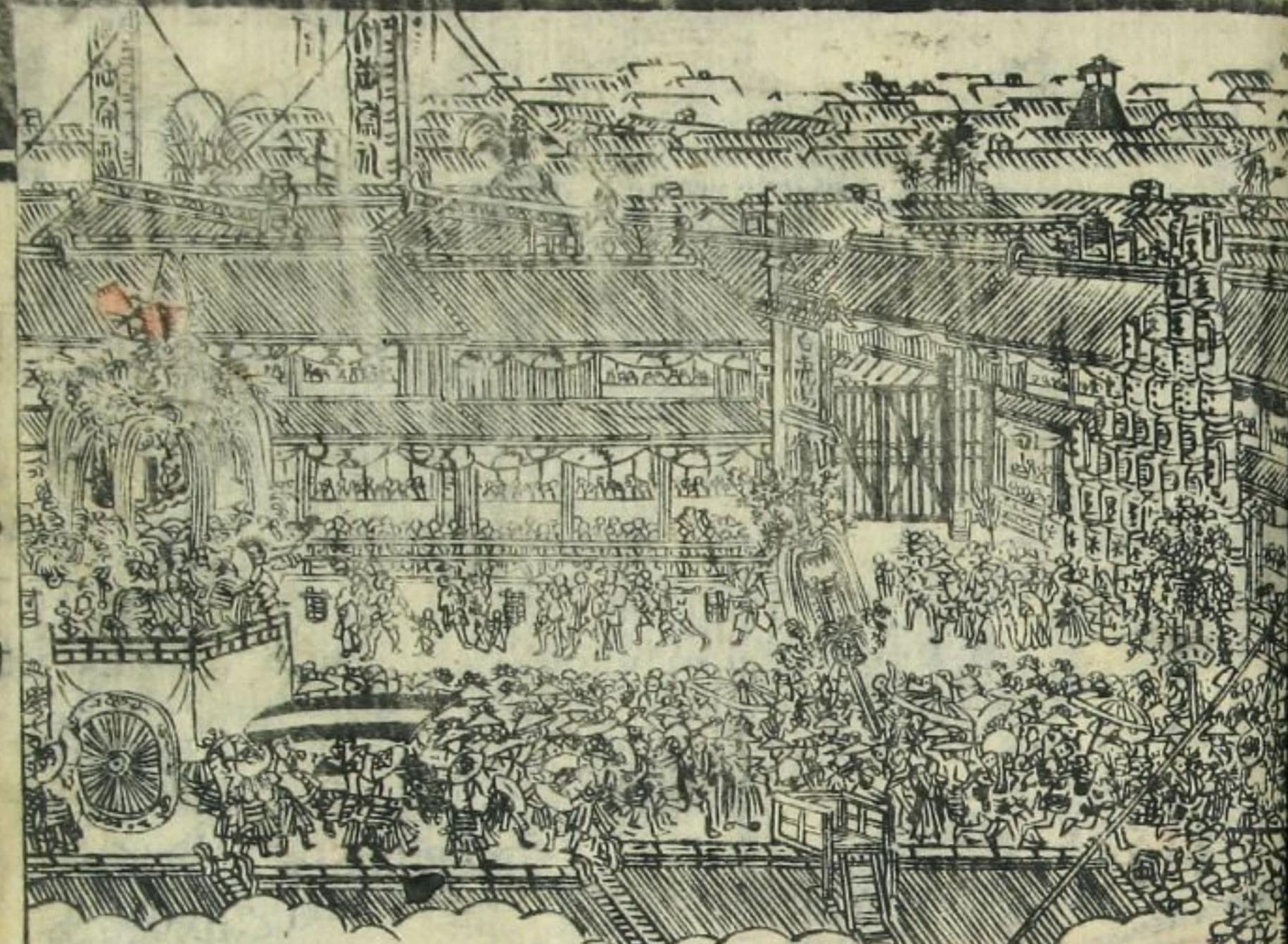
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

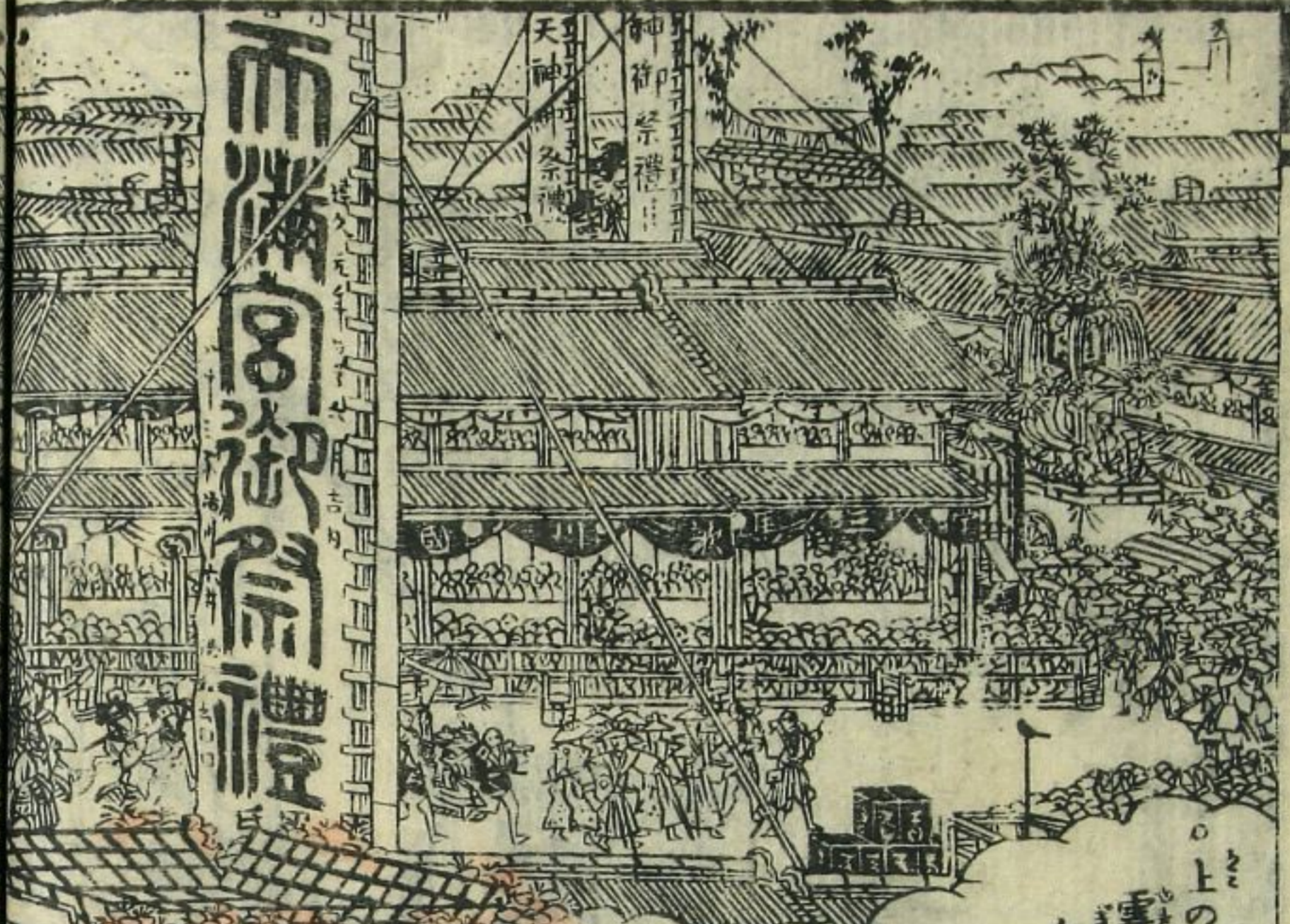
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた  
あつたあつたあつたあつたあつた

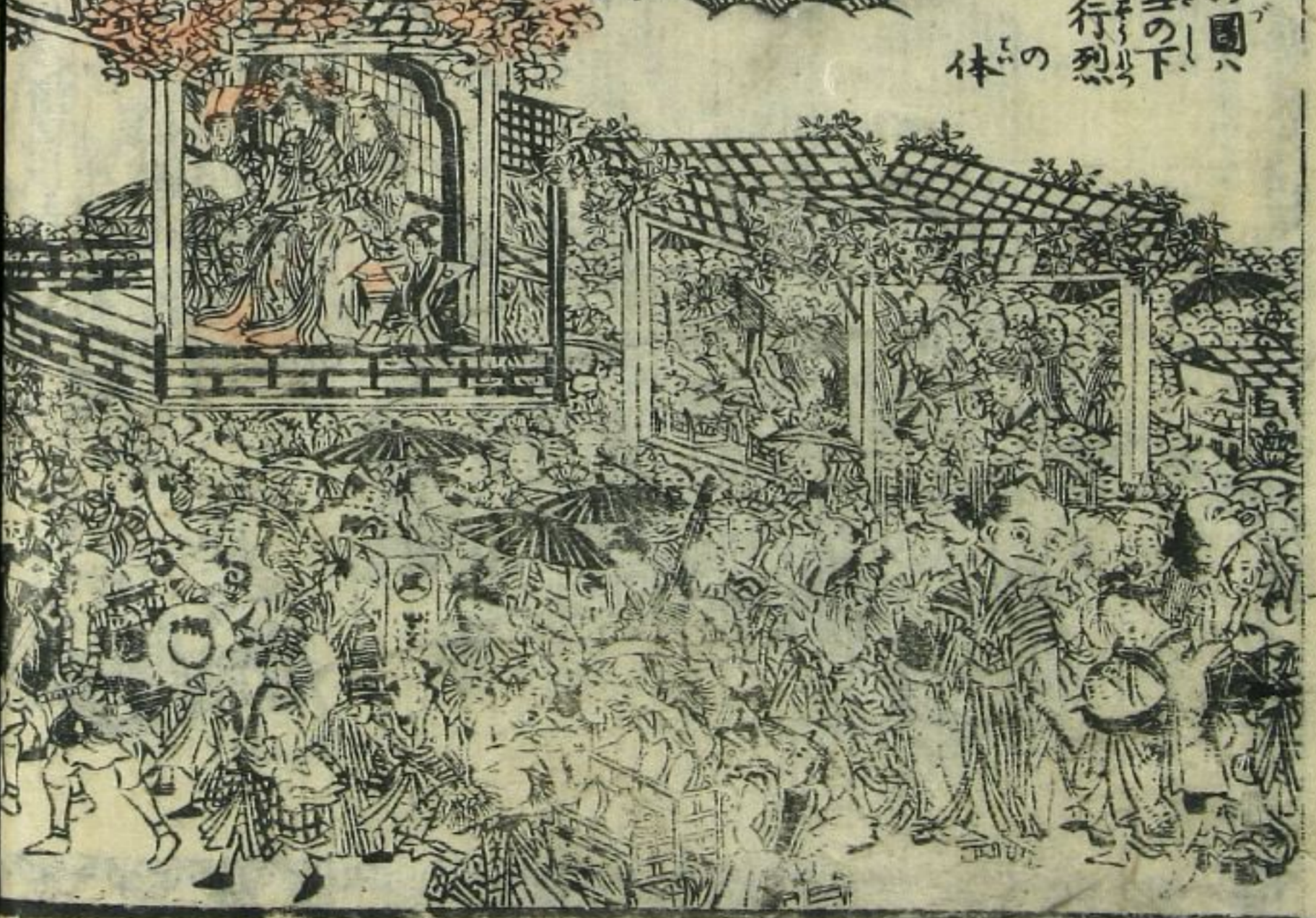




鎌倉倉在<sup>まがら</sup>天<sup>あま</sup>御祭<sup>みまつり</sup>禮<sup>れい</sup>勢<sup>せい</sup>の<sup>の</sup>圖<sup>ず</sup>



上の<sup>うへ</sup>の<sup>の</sup>圖<sup>ず</sup>ハ  
重<sup>おも</sup>の<sup>の</sup>下<sup>した</sup>の<sup>の</sup>行<sup>ゆき</sup>烈<sup>れつ</sup>の<sup>の</sup>體<sup>たい</sup>







三之巻

かしてあはれおぼし  
 縁まう左金吉を  
 志のせんとしけり  
 お高きとてうひ  
 かくて縁やのまを  
 内ゆりておぼし  
 せんとてひをひつ  
 まさるおのひかへ  
 けりやうのひかへ  
 さつて入んたまの  
 大まふよとてひ  
 けは縁まのまを  
 ひさくせまをひ  
 まちまひるる  
 も高きひより  
 大まふよとて  
 ちちらまひる  
 あゆあふと  
 ひとまのち  
 まてまお  
 思入左  
 のんね  
 あいあ  
 うう  
 せい  
 わ  
 け



左金吉さま  
 志のせんと  
 下さん  
 あうれ  
 せい  
 わ  
 け

かしてあはれおぼし  
 縁まう左金吉を  
 志のせんとしけり  
 お高きとてうひ  
 かくて縁やのまを  
 内ゆりておぼし  
 せんとてひをひつ  
 まさるおのひかへ  
 けりやうのひかへ  
 さつて入んたまの  
 大まふよとてひ  
 けは縁まのまを  
 ひさくせまをひ  
 まちまひるる  
 も高きひより  
 大まふよとて  
 ちちらまひる  
 あゆあふと  
 ひとまのち  
 まてまお  
 思入左  
 のんね  
 あいあ  
 うう  
 せい  
 わ  
 け



左金吉さま  
 志のせんと  
 下さん  
 あうれ  
 せい  
 わ  
 け

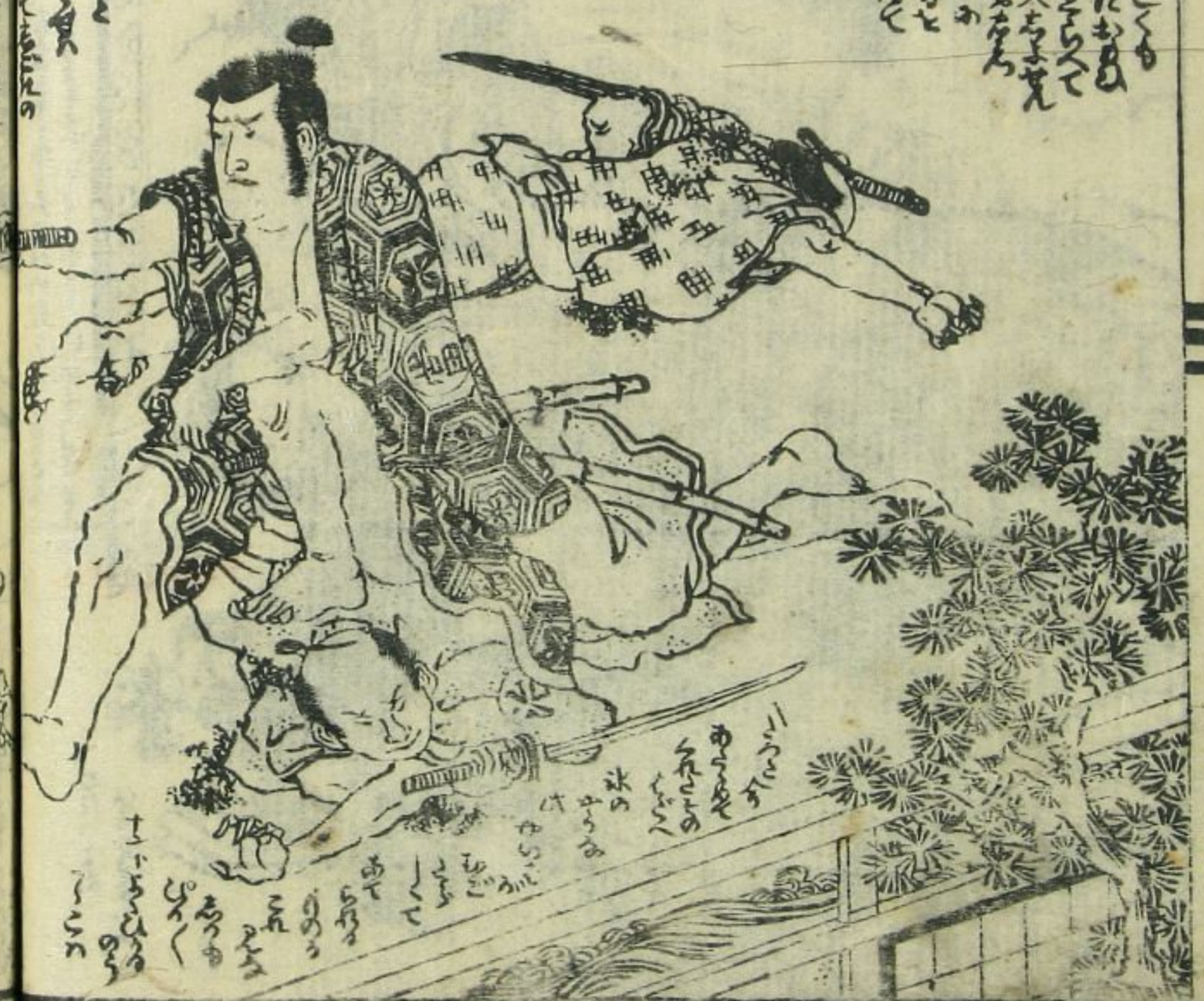


お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも

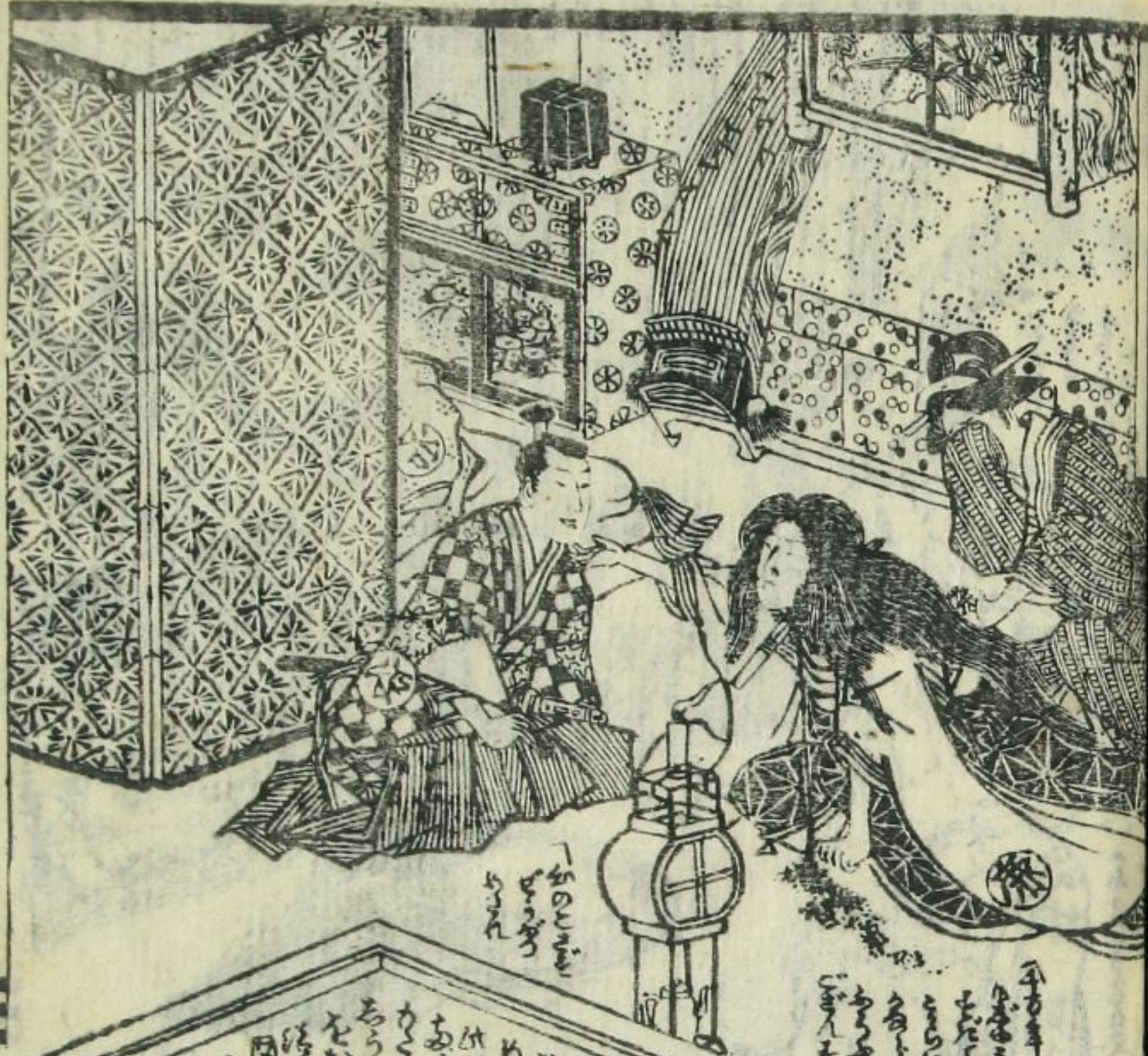


お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも

お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも



お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも  
 お麻がさの世に杭をかきしめておれはなむしくも



Handwritten text labels within the illustration, including names like 'Tsurumaru' and 'Yoneko'.

Vertical columns of handwritten text at the bottom of the left page, providing a narrative or commentary on the scene above.



Handwritten text labels within the illustration, including names like 'Kikaku' and 'Kikaku'.

Vertical columns of handwritten text at the bottom of the right page, continuing the narrative or commentary.











此の神は...  
 上坐...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...

此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...

此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...



此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...

此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...

此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...  
 此の神は...







五之卷

Vertical columns of handwritten Japanese text on the top left page.



Horizontal lines of handwritten Japanese text at the bottom of the left page.

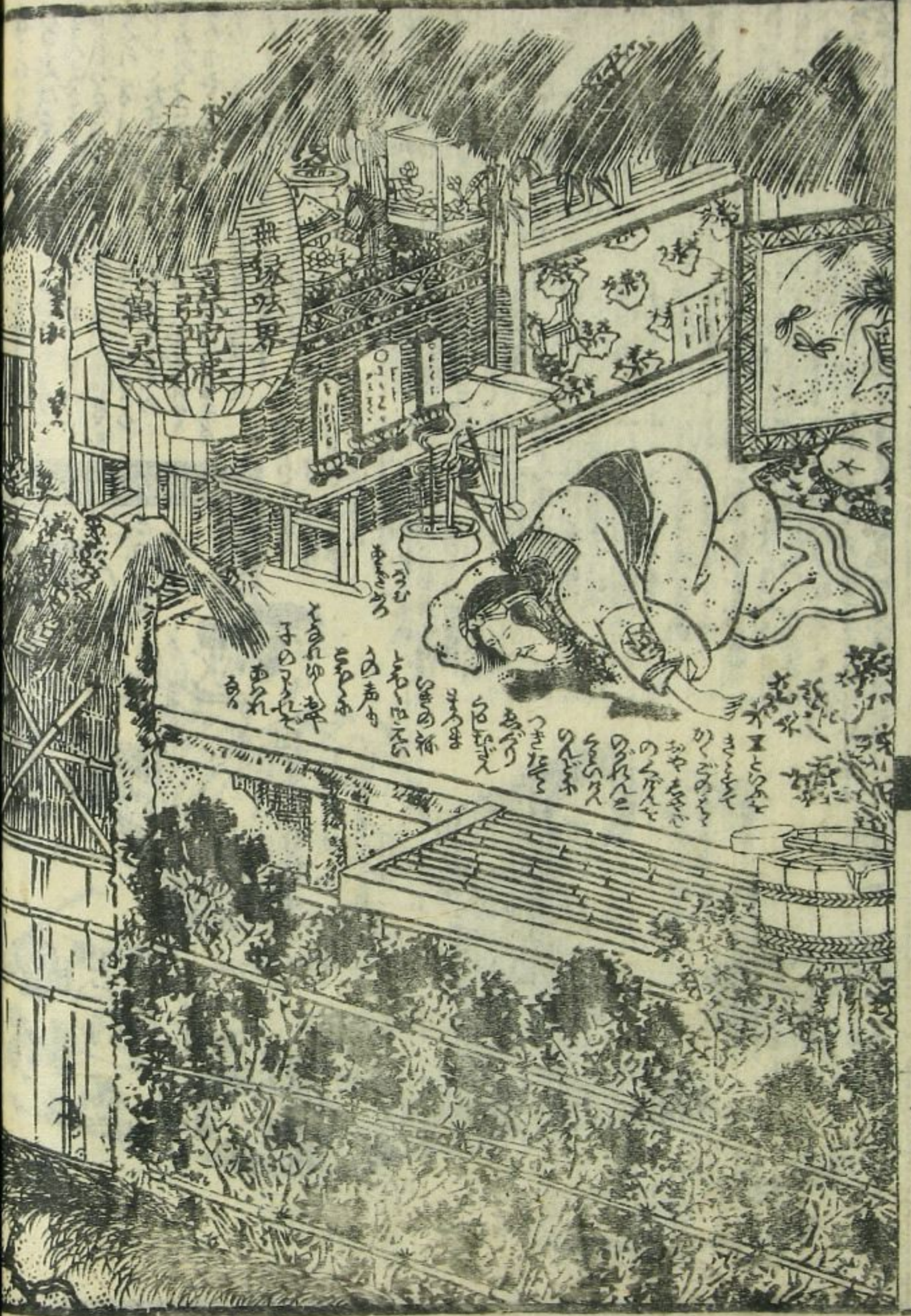
Vertical columns of handwritten Japanese text on the top right page.



Horizontal lines of handwritten Japanese text at the bottom of the right page.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style.



Handwritten Japanese text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration. The text is written in a cursive style.



カニ

カニ





















消息案内

黒沢翁満先生著

上編

全一冊

世の消息の書多しと云ふも渾要文との移る俗用を毎を名  
とすむに雅文の用をかきりしを此書中古の雅言と五十字音の  
假名とをて頭字となしはあ例ありし雅言を採捷徑を  
たふ奉存候の雅言の思ひありと云々惶惶言をあるし  
類ひ或る年既暑寒の帖の俗文の下に雅言をいしと書なく  
又ハ調皮の名の雅俗といふてと管くしわし金く初学の便蒙る

碁經奕範

服部因叔著

全二冊

此碁經ハ局こぶふらち早と云ふ僅小一隅をあけては解ハ石  
まれば局中盡く變むと云ふ意をりて法學小工をめぐらしむ

碁經奕筌

服部因碩著

全二冊

是ハ局中の碁小打方の評論とあが五字をよめてとむるものハ初学の  
者此術小志といふとてん欲ハ學者とて此筌を志しよものころこ

煎茶早指南

尾磔舎主人作  
月樵老人畫

全一冊

此書ハ尾沔樵天満宮尾磔舎主人述傳中て月樵老  
画師の筆をとりて賣茶早相の肖像と写し乃この  
箱の煎茶の具ふありし秘傳茶の意を出し  
茶具の並ね煎茶の法を傳し同好の人を便しむ

十躰千字文

両面一枚摺

觀音菩薩埵施無畏之圖 唐紙一牧摺一幅

此圖ハ明人李龍眠の描き真蹟を模寫し觀音の功德三千身の應現  
彼觀音と念ぶるの力をとく大坑いらんとおもむく者も忽ち變じて泥水  
なり大木の深き所に清涼と成て惡鬼毒蛇も遇せず敢て害を更  
けど雲雷の窟は制しめき大雨を降せるも怖れ無く消滅すと信じて  
とる經文の意を承す國の周囲の梵字ハ平手の陀羅尼と書きたるもの

草木性譜 舍人清原重巨撰 重光校 全三冊

此書ハ山田田圃の草木の中奇異なるを撰り清原方之を委く記し花葉  
葉根のいろもをわらも變種別種と考へ諸名家写生の画は着色を如本  
州の送酒は備へしとのぞき抄書家の羽翼となす也

天文中星風雨考 両面一牧摺

第一中星の譜を出し次ハ北斗七星の明暗中國家の安危を考へ  
万物の吉凶をこゝ一曆日ふしりて其年の善否と一と雲氣と終ひて  
五穀の豊凶を考へ一朔日の諸事と一風雨旱魃飢饉の天災と一  
燈花開附ははひ人倫の慶衰と一又天の陰晴を一と一  
一帯の中ふおのそ若年の奉物と一と一重寶と一と一

日用晴雨管窺 全一冊

此晴雨考ハその日ぐの晴雨を豫知す小司天の果といふものを考へ又  
八卦の道理と和氣一或ハ霧霞露霜電と窺て晴雨と一法雷  
虹蜺日月の暈地震ホの奉おおひ五穀の豊凶を論するゆふと

人相早合点 両面一牧摺

凡人相子の術とも小誣ひなき事古より貴賤貧福寿夫の事  
自然不備なき事又瘧の出所色相より吉凶聖賢の差別と  
しりく此点と考へてそのうち其理の便覧なる事自體で知事之

點竄指南録 坂部先生著 全十五冊

此算法日用の相場割利之義未積田畑取箇等の諸算法より起り  
天元演段諸約簡管招差趕越角術山理弧背木の深術より起り  
法小より起り若用ふ臨く業をさるはけ法小仍て其術系を  
探るに速ふ本術をゆるり初学の爲ふ古今の義題を集め題下に  
本術を施し別ふ點竄法小仍て其術系と詳ふ其用法と一めり

易道早合点 両面一牧摺

此早合点其日の晴雨天災商賣の利便又六損失乾室の賦ふ成  
病人の吉凶得物の有無失物方位持負の善惡毎月毎日占の標  
指を易の卦小準へて吉凶をくは是誠なる商人早合点の書

繪本庭訓往来 北齋為一老人画 全三冊

此書は去書法印の他ありけり今ありけり老人の老  
事と見ても本文小所在人物を歌草木其外品物より起り  
出せるものなきは本文を解するに九易く寔ふ多智の  
書と見ても州本も歌の名と形とを考へし三百篇の詩  
と考へて多く草木も歌の名とを考へしは優きと云べし



永平道元禪師行狀之圖

画箋紙 一 牧摺 二 幅

此禪師越前永平寺の開山にして我内大臣の御子は毎九條  
関白基房公御女なり正治二年二月降誕ありて五才の時唐人  
百詠の詩を讀み八九才にして俱舎論を閲しそれより勤學  
中んく深く出塵の志をおこし日ひては利發ありて其後入  
宋より一更實の時に村海におかれて猛虎は値ひて  
峯女八才にして神童小わひ南海を涉り多しと風俗  
の起るる不怙然として恙あるも由來就前の吉祥山の  
故事 峯遠帝の朝小わひは衣を物ともく辛巳  
小一て一偈を書き畢り多しと遷化ありて多しと志  
くわげ馬ふ馬なる大幅の掛物なり

後撰和歌集新抄

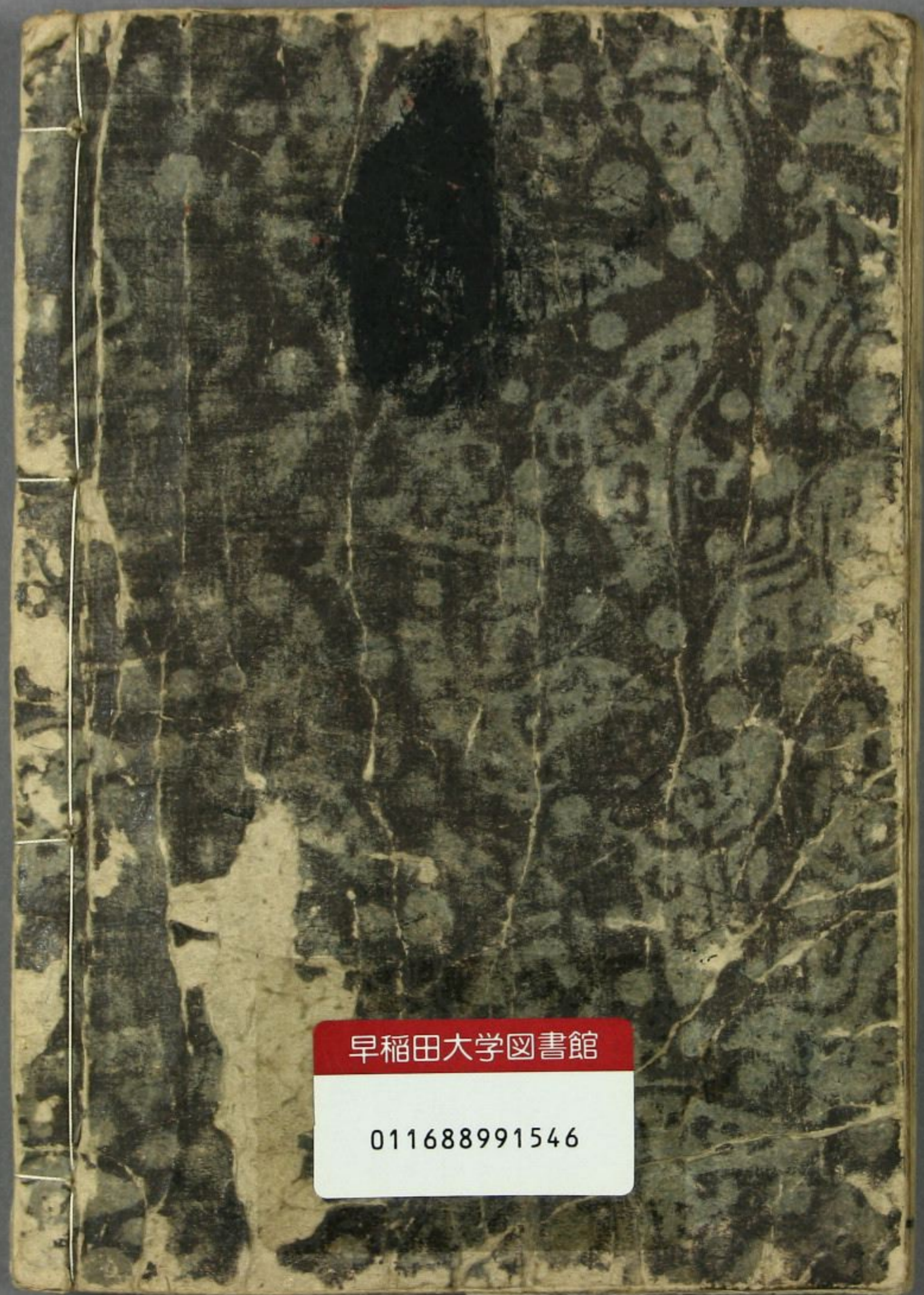
別記一冊

全十五冊

け書ら真淵契仲本居其外諸大人の言説を悉く参考し  
先人未發の自考を師へ古実規式をまゝ先河の  
傍てふをほのとの人なるとも悉くともまゝにて本居大平  
翁石原正明先生中の説考考閱を加てわははるとのこ  
延壽養生談

全一冊

け書ら養生の極秘をまゝふかて人平をかをわいおえ  
これバ女子といふもまゝやまゝ病を余は救ふ百十條  
をわつめこれバ人平を熟讀せしむるは養生の基なり  
実小百年の壽をたつるもこのひたり



早稲田大学図書館

011688991546